

「第53回静岡ホビーショー」レポート

別府大学短期大学部
地域総合科学科

教授 梶原 博

去る5月17日、静岡市で行われた「第53回静岡ホビーショー」に行ってきました。日本は世界有数のプラモデル大国であり、なかでも静岡市には世界的に著名なメーカーが集中しているのですが（全国シェアの90%）、「静岡ホビーショー」は、「静岡模型教材協同組合」（1955年設立）が主催する国内最大規模の各種模型玩具に関する国際見本市で、バイヤー向けの前半2日と一般公開される後半2日の計4日間にわたって、毎年5月に行われます。ここ1・2年、ほぼ隔月で日本のいろいろな地域を、それぞれにもっともらしいテーマを立てながら訪問しているのですが、今回は、個人的な趣味もあって、「ものづくり県」静岡を訪問した際の訪問先の一つである、この「静岡ホビーショー」の様子を紹介したいと思います。

1 何が出展されているのか

出展された「模型」および関連商品は、次のようなものです。実際には、それぞれの分野でクロ

スオーバーしています。基本的には、架空・現実を問わず「世界」のほとんどすべてのモノが、プラモデルとして商品化されています。

○軍事関係のスケールプラモデル（陸海空）

いわゆるプラモデルの基本です。「スケールモデル」とは縮尺が明示されており、「本物らしさにこだわっていますよ」という主張を表しています。もちろん軍事以外の分野にも、スケールはあります。

○自動車のプラモデル

スポーツカーや一般乗用車だけでなく、電飾トラックなども根強い人気を誇っています。

○金属製のミニカー

意外ですが、トラクターやクレーン車などの各種重機も人気です。

○ラジコン

陸海空に潜水艦まであらゆる種類のラジコンがあります。エンジンも電気モーターだけではなくガソリン、蒸気、ジェットエンジン、すべて揃います。



- 鉄道模型
- 情景模型（ジオラマ）



ラジコンなどの「自由に動かす」模型以外の分野において、作り手の行き着く先の一つが情景模型です。建物から始まり（昭和から現代まで、本当にあらゆる種類を含む）、自然背景（山川海のあらゆるシーン）まで、あらゆるパーツや造形素材（たとえば、水を現すためのレジン）があります。個人的には、タクシー会社の骨組みや看板の汚れが好きなので、購入しています。

○キャラクターもの

アニメに代表される、架空のモデルですが、ガンダムのプラモデルがそうであるように、スケールを明示することで、「本物」として「考証」が行われています。

2 会場での驚き

ラジコンモデルの隆盛

会場に入って一番驚いたこと、それは、出店企業のブースで一番の面積を占めていたのが、「ラジコン」だったということです。ネットで「模型」「プラモデル」で画像検索しても、「ラジコン」の画像はほとんどヒットしません。ネットサーフィンしていても、「ラジコン」関連の記事に行き着いたことはほとんどありませんでした。

確かに、数少なくなった地域の模型屋さんにはラジコン（とモデルガン）のお店が多いなと感じましたし、模型業界の横綱であるタミヤが、かつて四輪駆動の安価なラジコンを開発して、少年コ

ミックを巻き込んだ一大ブームになったという事実も頭の片隅にはありました。しかし、まさか、出展企業の半分が、ラジコン関連の企業だったとは！

事実認識として驚く一方で、なぜ、模型の見本市でラジコンが主流になっていることに違和感を感じたのかも、われながら気になりました。

昭和40年代前半、小学生になった私が最初に作ったプラモデルは、ゼンマイ仕掛けのカーモデルや歩行可能ロボットでした。初期のプラモデルには、可動部分が普通に含まれていました（ゼンマイ仕掛けで地上走行する飛行機は冗談としても、翼の一部が動いたり、ハンドルと一緒にタイヤが動いたり）。

しかし、その後のプラモデル発達史の中で、このような可動性は「玩具っぽく」「リアルではない」という烙印を押されました。

模型とは、ざっくり言えば、世界の再現、解釈であり、再構築です。であるなら、模型を動かそうということは至極あたりまえの願望となるはずなのに、趣味としての正統派モデラーは、この楽しみを否定しているわけで、このような姿勢が模型人口の減少を招いているのは間違いないでしょう。では、なぜこんな考え方が生まれるのか。

このことについては、別の機会にもう少し考えてみたいと思っていますが、一つ考えられるのは、人間の感じる「リアル」というのは、「制限」「しぼり」のもとで最大限に発揮される、ということなのでしょう。テレビ時代のラジオ、マルチメディアに対する活字文化などと同じです。

しかし、現実には、今の模型業界の中心はラジコンでした。それも、かつてのようただ動かす楽しみだけではありません。

会場では、オートバイやマルチコプタ（回転翼が2枚以上）、潜水艦などが本物のように飛び回り、走り回っています。考えてみれば、わたしが子供のころのラジコン（リモコン）は、外観はそれなりの、ひたすら動くことがポイントで、それと同時に、動かすための準備やエンジン整備という、世界の構築などとは無縁の技術そのものの面白さがわれわれを魅了したものでした。トータルとしての「本物らしさ」は二の次だったのかもしれない。

れません。だから、「正統派」モデラーから一線を画されていたのでしょう。



しかし、今のラジコンは違います。外見がよりリアルになっただけではなく、エンジン・モータの小型化とコンピュータ制御技術の発達のおかげで、本物の「動き」を再現できます。ヘリコプターは、実機も難しい背面飛行も可能です。しかも、搭載した小型カメラをスマホ画面に転送することで、模型世界を見ることもできます。

今後、こうしたラジコンの世界が、従来の模型世界とどのように関わっていくのか、興味深いものです。

③ こんなものも模型化！

冒頭で述べたように、およそ身の回りのすべてのアイテムが、模型化され、プラモデルキットになっています。このところ、雑誌や店頭で私が面白がっていて、展示会でも新製品などとして積極的にPRしていたアイテムとして、「生活身の回り品の小物」関連プラモデルの充実があります。

ラジコンモデルの牽引車であったタミヤと並ぶ、国内模型メーカーの一つであるハセガワは、特に飛行機プラモデルが有名で、その技術水準は、世界で「ハセガワスタンダード」と呼ばれるほどなのですが、このハセガワが最近シリーズで作っているのが、学校の小物です。

具体的には、昔懐かしい（今もある）あの小学校用のスチール一人机と椅子のセットやら、理科室の洗い槽つきテーブル+木製椅子のセットや

ら、跳び箱やらなどが、ここ2・3年売られています。また、青島文化教材社からは「学校の階段」（怪談ではなく、階段そのもの）が先行販売されていました。



似たようなものとして、バリバリのミリタリープラモの王者でもあるタミヤも、スイーツデコレーションというジャンルに力を入れ、ホビーショー会場や同時開催していた本社オープンハウスでの実演教室をやっていて、大盛況を博していました。



このような「身の回り小物」の世界は、ドールハウス系のモデラーにとっては普通のアイテムでしょう。また、スイーツデコレーションも調べて

みると、それなりの歴史や裾野をもっているみたいで、いわば、手芸世界のありふれたアイテムだと思います。よく考えれば、これらの素材もハンズマンや東急ハンズでよく見かけるものです。

しかし、プラモとなったこうした商品は、そうした手芸世界とは異なる、模型世界のアイテムの匂いがします。

4 日本の模型文化とプラモメーカー

最近、日本の歴史や歴史文化における、技術や職人、家業の在り方についていろいろと考えることが増えました。そうした目で、模型（プラモ）業界を見てみると、なかなか面白いものがあります。

正統的なモデラーにとって、「模型の理想は完全自作に至る」というような価値観があるような気がします。特に欧米の場合は、日本より歴史が古く、それほど肩に力が入っていない形でこのような伝統が残っており、日本のモデラーたちを羨ましがらせています。もちろん、海外のメーカーの裾野もそれなりに広いのですが、趣味の在り方として、海外メーカーは日本の「メーカー」とは違って、経営者本人がまず趣味の人であり、好きが乗じて、素材を提供する商売に至ったような気がします。

一方、日本のメーカーは、明らかに「ユーザー」とは異なる、工業的専門家だと感じます。静岡に模型メーカーが集中しているのは、徳川將軍家の地元として、神社仏閣などの大工・木工職人の伝統に基づいた、戦前の木工ミリタリー模型まで遡る伝統があるからだそうです。つまり、タミヤやハセガワは、最初からプロであり、家業企業であり、そうして、その提供するパッケージは、素材ではなく、ある種の完成品なのです。

小学校の机が単なる生活感やノスタルジーに基づいているだけなら、私（たち）はあれほどそそられないのではないかと、あの世界のハセガワが、全力をあげて作った精緻な金型から射出成型されたプラスチック部品を切り取り、接着し、色を塗ることの喜びを想像して思わず買ってしまわないかと、と考えたりもするのです。少し変なた

とえですが、かつおぶしという専門職人集団によって作られた素材を前提に普通の人々が料理をする日本と、プロもそうでない人も、等しく素材から時間をかけてスープを作り上げる欧米の違いのような。

5 おわりに

ホビーショーに初めて行って感じたことを書き流しました。

そこでは、普段からなんとなく考えていた、日本の模型（プラモ）世界への印象が改めて実感として迫ってきました。また、静岡という地域性と日本のプラモデルの歴史性との関連も興味深いものがありました。日本における模型とプラモの違いや、模型世界と現実世界の関係など、いつか改めて書いてみたいと思います。

最後に、タミヤの特売コーナーで買った、変なイギリスのヘリコプターの写真を。かわいいと思いませんか。

